

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	藤田医科大学病院生活利便棟	階数	地上4階
建設地	愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98他76筆、名古屋市緑区鳴海町字大清水69番地159他22筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	1,845 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年2月 予定	評価の実施日	2020年11月25日
敷地面積	10,170 m ²	作成者	三田雄貴
建築面積	5,114 m ²	確認日	2020年11月26日
延床面積	11,201 m ²	確認者	三田雄貴



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)								
<p>BEE = 1.5 ★★★★★☆</p> <p>S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td>98%</td> </tr> </table> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	①参照値	100%	②建築物の取組み	98%	③上記+②以外の	98%	④上記+	98%	
①参照値	100%									
②建築物の取組み	98%									
③上記+②以外の	98%									
④上記+	98%									

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.2

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
Q1のスコア = 0.0	Q2のスコア = 3.5	Q3のスコア = 3.0
音環境: N.A. 温熱環境: N.A. 光・視環境: N.A. 空気質環境: N.A.	機能性: 3.4 耐用性: 3.6 対応性: 3.6	生物環境: 3.0 まちなみ: 3.0 地域性: 3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 3.3	LR2のスコア = 3.8	LR3のスコア = 3.3
建物外皮の: 5.0 自然エネ: 3.0 設備システ: 2.1 効率的: 3.0	水資源: 3.8 非再生材料の: 3.9 汚染物質: 3.6	地球温暖化: 3.0 地域環境: 3.6 周辺環境: 3.2

3 重点項目

<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.0</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>19.1 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>45.9 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.7</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	全体
Q 建築物の環境品質													3.2
Q1 室内環境													
1 音環境													
1.1 室内騒音レベル		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音													
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音													
2 温熱環境													
2.1 室温制御													
1 室温		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 外皮性能		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御													
2.3 空調方式													
3 光・視環境													
3.1 昼光利用													
1 昼光率		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策													
1 昼光制御		5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.3 照度													
3.4 照明制御													
4 空気質環境													
4.1 発生源対策													
1 化学汚染物質		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4.2 換気													
1 換気量		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理													
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能													
1 機能性													3.4
1.1 機能性・使いやすさ													
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	3.0	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性													
1 広さ感・景観(天井高)		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	3.0	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理													
1 維持管理に配慮した設計		0.3	4.5	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	5.0	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	
防汚性の高い建材を採用、風除室に1次扉と2次扉を設置 掃除用具の保管場所・掃除流しを設置、廊下にコンセントを計画													
2 耐用性・信頼性													3.6
2.1 耐震・免震・制震・制振													
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.3	3.6	0.31	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能		0.4	3.8	0.48	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数													
1 躯体材料の耐用年数		3.0	4.0	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		0.3	3.3	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	
2種類以上にB使用(給水管B、汚水雑排水管B、冷温水管D)													
2.4 信頼性													
1 空調・換気設備		0.1	3.8	0.19	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 電気設備		3.0	5.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	
熱源種の二重化、ダクト・配管設備に防振対策を行う 節水型器具、雑排水の一次的貯留機能を確保、井水利用可能 非常用発電設備、浸水の危険性がない、異なる変電所から2回線受													

3 対応性・更新性				0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり				0.3	3.4	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり				3.0	0.60				
2	空間の形状・自由さ				3.0	4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり					3.0	4.0	0.31			
3.3 設備の更新性				0.3	3.6	0.38				
1	空調配管の更新性	②			3.0	0.17				
2	給排水管の更新性				3.0	4.0	0.17			
3	電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11			
4	通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11			
5	設備機器の更新性				3.0	5.0	0.22			
6	バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.50				3.0
1 生物環境の保全と創出			独自③			3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④			3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30				3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④			3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上						3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性						-				3.4
LR1 エネルギー					-	0.40				3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI _m =0.75	3.0	5.0	0.30			5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20			3.0
3 設備システムの高効率化					3.0	2.1	0.30			2.1
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20			3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00			
4.1	モニタリング				3.0	3.0	0.50			
4.2	運用管理体制				3.0	3.0	0.50			
集合住宅の評価					-	-	-			
4.1	モニタリング				-	-	-			
4.2	運用管理体制				-	-	-			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30				3.8
1 水資源保護					0.1	3.8	0.15			3.8
1.1 節水					3.0	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.6	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無				3.0	4.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.9	0.63			3.9
2.1 材料使用量の削減					-	3.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.25			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②		-	3.0	0.21			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自		3.0	5.0	0.21			
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	5.0	0.25			
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.6	0.22			3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	4.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.5	0.68			
1	消火剤				-	-	-			
2	発泡剤(断熱材等)				-	4.0	0.50			
3	冷媒				3.0	3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30				3.3
1 地球温暖化への配慮			①		-	3.0	0.33			3.0
2 地域環境への配慮					0.3	3.6	0.33			3.6
2.1 大気汚染防止					-	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.7	0.25			
1	雨水排水負荷低減	独自			-	4.0	0.25			
2	污水处理負荷抑制				-	3.0	0.25			
3	交通負荷抑制	独自			-	5.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制				-	3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					0.3	3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40			
1	騒音	独自			-	3.0	1.00			
2	振動	独自			-	-	-			
3	悪臭				-	-	-			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40			
1	風害の抑制				-	3.0	0.70			
2	砂塵の抑制				-	3.0	-			
3	日照障害の抑制				-	3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					0.2	4.4	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	5.0	0.70			
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30			

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.7
Q2-2	耐震性・信頼性	3.6	0.16	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.14	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15	外構緑化:19.1%/建物緑化:45.9%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・既存医科大学・病院群の中心部に建つ利便施設。 ・低層建屋屋上部を利用した芝生広場と一体的に利用できる飲食テナントを備え、利用者の憩いの場を形成。 ・周辺の既存建屋と渡り廊下で接続し、施設全体のスムーズな動線計画に寄与している。
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・評価対象なし。
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の利用継続性のため基準法の25%増の耐震性を有する。 ・熱源種を二重化とし、更新・修繕時に建物機能が維持できるようバックアップとして使用できる機器を設置。
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・人工地盤棟の屋上へ芝生を植生。 ・地下1階の南面へ壁面緑化を計画し暑熱環境を緩和している。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・開口部は、Low-Eガラスを採用し、日射の遮熱性を高めている。 ・空冷ヒートポンプチラーを主熱源として採用している。 ・建物内及び外灯の照明器具は全てLED照明を採用している。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・上水に井水を利用している。 ・環境性能に配慮し、地球温暖化係数(GWP)の小さい断熱材を採用している。 ・化学物質の使用削減に努め、有害物質を含まない「接着剤」を採用している。
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・地下貯留槽を設置し、雨水流出抑制対策を実施している。 ・屋上の緑化計画により、熱的な影響を低減している。
その他	